

# 豊庄だより



第 563 号 2019年 5 月 13 日

福岡市早良区南庄 2-26-13  
社会福祉法人林生会豊庄保育園  
園長 西尾 達

長い連休を終え 1 週間が経ちました。家でゆっくりした人、行楽地へでかけた人、「何を言っているんですか、休みなんてなかったよ」と仕事をしてきた人など、日本中で様々な 1 週間が繰り広げられたようです。私とは、最初の 3 日間だけ行楽(魚と温泉と美術館巡り)をし、あとは休養。なんとなくの連休でしたが、前々から読まなければと思っていた本を(1 冊ですが)読了しました。本のタイトルは、『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』(文春文庫)といいます。300 ページちょっとの文庫本です。著者の高瀬毅さんは長崎生まれの被爆二世。長崎の高校を出て東京の大学に進み、卒業後放送局に入社して記者、ディレクターをし、日本民間放送連盟賞最優秀賞などを得ました。1989 年にフリーになり、ジャーナリスト、ノンフィクション作家として数々の作品を残しました。今回紹介する『ナガサキ 消えたもう一つの「原爆ドーム」』は、2009 年に平凡社から刊行され、2013 年に文庫化。前置きはこれくらいにして、本の内容について書きます。1945 年 8 月 9 日、長崎に二発目の原子爆弾が投下されたのは皆さんご存知でしょう。しかし、落とされた中心地にあった浦上天主堂の歴史については、観光地化していることもあり、あまり知られていません。



廃墟と化した天主堂 (1945 年 11 月)



浦上はキリスト教徒受難の地です。徳川幕府が禁教令を出し、宣教師を追放し、キリスト教徒を弾圧します。多くの信徒たちは隠れキリシタンとしてその時代を生き延び、明治になって禁教令が廃止されると、この地に天主堂を作ろうということになり(この地に作った理由の一つに、ここが信徒たちを迫害、弾圧するための「絵踏み」が行われた庄屋の跡地ということがあったそうです。)、約 30 年の歳月をかけて完成します。その地に原子爆弾が落とされたのです。ここに住む多くのキリスト教徒

が亡くなりました。天主堂は一部側壁残すのみで全壊、天使像や聖人の石像も破壊されました。長崎市は貴重な原爆遺構だととらえ、「保存すべき」という方針を出しました。しかし、1955 年、アメリカのセントポール市と長崎市との間で姉妹都市提携の話が持ち込まれた頃から、変な動きが起こります。長崎市長が、アメリカに招かれ全米を回る大旅行から帰国します。保存の考えを示していた渡米前とは明らかに態度が変わったのです。アメリカで何があったのか? 著者の高瀬さんはアメリカにも出かけ、多くの人からの聞き取りや公文書館の資料を調べをしています。明確な証拠は見いだせなかったのですが、そこにアメリカの対日占領政策と深く結びついていることが浮かび上がってきます。結局、1958 年 3 月 14 日から天主堂の取り壊しが始まり、廃墟の一部を原爆落下中心地公園の片隅に移築し、1959 年 11 月に同じ地に新しい天主堂が完成します。広島には原爆ドームがあり、そこを訪れた人は、「ノーモアヒロシマ」について考えます。しかし、ナガサキにはそうした遺跡がありません。もし浦上天主堂が保存されていたら...と思わざるを得ません。大変スリリングな展開で、一気に読むことができる 1 冊でした。



爆心地公園に移設された天主堂の一部